

国立大学法人滋賀大学への寄付に対して「紺綬褒章」を受章

2018年6月5日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(社長:金杉 恭三)は、2017年3月に行われた国立大学法人滋賀大学(学長:位田 隆一)への寄付に対して、公益に資するものとして「紺綬褒章」を受章し、6月4日に当社本社ビルにて伝達式が行われました。

紺綬褒章は、社会や公共の福祉、文化などに貢献した者を顕彰する日本の栄典の一つであり、公益の為に私財を寄附し、その功績が顕著な個人または法人・団体に、日本国政府より授与されるものです。

当社は昨年3月に、今後のデータサイエンス分野の教育普及と日本の未来に向けた人材育成への貢献を目的として、日本初のデータサイエンス学部を開設する滋賀大学に寄付を行いました。この度その取り組みが認められ、受章の運びとなりました。

滋賀大学とは昨年、安全な社会構築に寄与する調査研究、損保ビッグデータの高度な分析技術・有効活用の研究、実データによる実践的な研究を通じたデータサイエンティストの育成教育を目的として産学連携の協定を締結し、国内保険業界初のビッグデータ専門研究拠点「日本セーフティソサイエティ研究センター」を滋賀大学内に開設しました。現在、本年度中の研究成果の発表を目標に大学・当社からのメンバーによる具体的な研究が進められています。

当社はこれまでも滋賀大学との産学連携に加え、テレマティクス自動車保険というデータ分析を活用した保険商品開発や社内データ分析研修の実施など、データサイエンス分野での具体的な取り組みを進めてきました。また、6月1日付で「データソリューション室」を新設し、今後も滋賀大学との更なる連携とともに、データサイエンス分野の取り組みを強化し、高度人材育成や安心安全な社会の構築への寄与に取り組んでいきます。

<参考1:データソリューション室の新設> (2018年6月5日)

<参考2:日本初のデータサイエンス学部を開設する滋賀大学と保険業界初の連携> (2017年3月17日)



左:位田学長 右:金杉社長

以上